

国際会議から

第11回雷防護国際シンポジウム

雷防護国際シンポジウムは、ブラジルのサンパウロ大学とIEEEとの共催で、2年に1度開催されている国際会議であり、工学的な立場から雷を扱う会議としては、最も大きな国際会議の一つです。1988年の第1回以来、今回



で第11回を数えます。今回は送配電設備、風力発電設備、鉄道システム等の雷害対策に関するセッションや落雷位置標定、落雷に伴い発生する電磁界、接地に



新井英樹
信号通信技術研究部
信号研究室
主任研究員

関するセッションなど、10のセッションに分かれて発表が行われました。学術的内容のものから実務的内容のものまで、各国の参加者から最新の知見が紹介されました。筆者は、計算解析による踏切設備の雷害対策効果の定量的評価に関する発表を行いました。

会議参加者としては、大学関係者や電力会社の技術者が多く、鉄道関係の技術者は少数派ですが、その分、深いコミュニケーションをとることができました。次回以降、より多くの鉄道関係技術者の参加が期待されます。

なお、会議期間中の中日にシンポジウムディナーが催されましたが、それに先立ち、SIPDA Football Cupが開催されました。会議参加者を4チームに分けて、熱い戦いが繰り広げられました。さすが、サッカーの国、ブラジルだと感心しました。

正式名称：XI International Symposium on Lightning Protection (XI SIPDA)

開催国：ブラジル（フォルタレザ）

期間：2011/10/3 - 7

主催：サンパウロ大学、IEEE

開催頻度：隔年1回

次回開催予定：2013年10月 ブラジル